

## 交通ルールをしっかりと守りましょう！

～ドライバーは適切な運転操作、正しい状況判断をする義務があります～

運転をする時は事故の危険があると意識することが大切です。自分の運転を過信したり、甘い判断をすることは危険です。ハンドルを握る際は常に気を引き締め、安全運転を心掛けましょう。

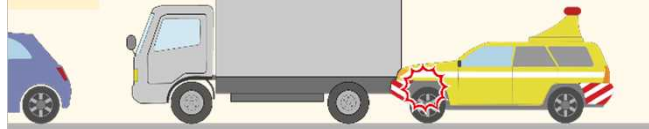
### 事事故例1 注意力が散漫となり、先行車に追突

【事故概要】道路パトロール車による巡視中、渋滞の中で低速で走行していて、前方のトラックが停車したことに気づくのが遅れ、追突した。

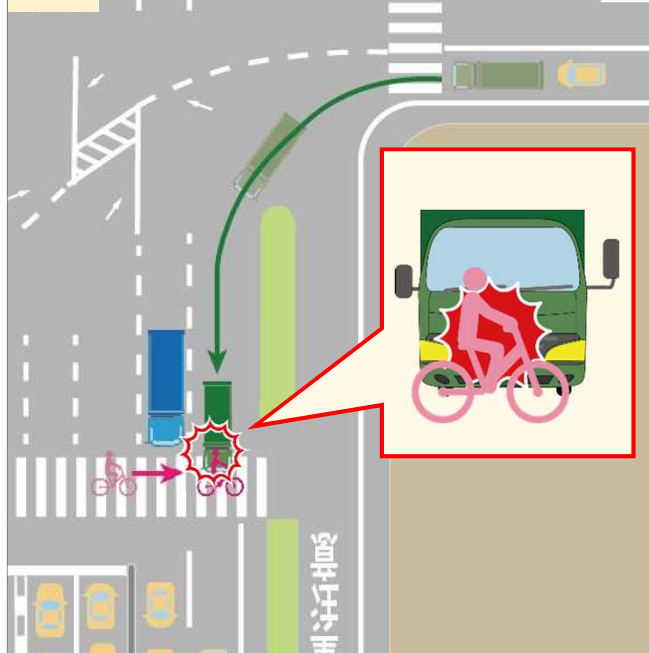
【主な要因】低速走行により注意力が散漫となって、周囲の安全確認を怠った。

【再発防止対策】①巡視前のKY活動で、渋滞時における事故防止について確認し、安全意識の向上を図る。  
②前方車接近警告付きドライブレコーダーを車に搭載することで、車間距離を確保する。

事例1



事例2



### 事事故例2 確認不足により自転車と接触

【事故概要】2tダンプトラックで左折した際に、横断歩道を通行中の自転車に気づかず接触し、転倒させた。右側車線の横断歩道手前に停車中のトラックがあり、このトラックの死角となった自転車に気づくのが遅れたと考えられる。

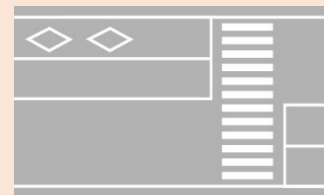
【主な要因】トラックの陰に人や自転車がいるかもしれないことを想定せず、安全確認を怠って横断歩道に進入した。

【再発防止対策】交通事故安全教育を徹底する。  
(横断歩道手前で歩行者の確認を徹底)

## 安全運転のポイント



- 横断歩道は、歩行者優先であり、運転者には横断歩道手前での減速義務や停止義務があります。
- 横断歩道手前に渋滞車列がある場合、横断歩行者や自転車の発見が遅れやすくなります。路面の「横断歩道または自転車横断帯あり」の道路標示（ダイヤモンドマーク）を見落とさないようにしましょう。
- 余裕を持った車間距離を確保し、先行車の不意の減速や低速を予測しながら運転しましょう。
- 右左折の時は、歩行者等がいなか丁寧確認しながら走行しましょう。
- ヘッドライトの点灯によって、歩行者に車が接近していることを知らせることが出来ます。「暗くなってきた」と感じる前にヘッドライトを点灯しましょう。



## 【速報】直轄工事で死亡事故が2件発生！

ダンプトラック運転中に運転手が死亡する事故が1月30日(月)、2月1日(水)と続けて2件発生しました。現時点で2件とも事故原因は不明ですが、受注者は、運転者の健康状態等の確認を徹底し、また、運転者は運転中に体調不良になった場合は、車を駐車場などの安全な場所へ移動して休憩しましょう。

安全運転で大事なことは技術よりも心構えです。余裕を持って運転しましょう

# 無人航空機（ドローン等）は事前準備が大切です！

～基本的な操縦方法や事故回避のための操作方法をあらかじめ押さえましょう～

近年、無人航空機（ドローン等）の利活用が増加しています。新たな技術の進展は歓迎すべきことですが、一方で人や建物・車両などに危害が及ぶことはあってはなりません。航空法や関連法令、ルールを遵守することはもちろんですが、周囲の状況などに応じてさらに安全に配慮しましょう。

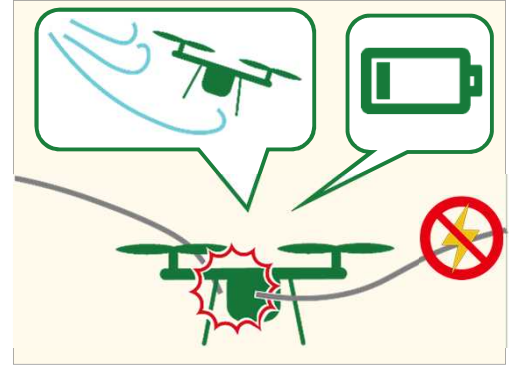
## 事件事例1 着陸時に電線に接触し、切断

【事故概要】 無人航空機の強制着陸モードが発動したため、手動着陸に切り替えたところ操作を誤り、電線に接触し切断させた。

【主な要因】 離陸地点の風速は規定範囲内だったが、上空は風が強く機体が流された。また、向かい風であったことから、帰還する際にバッテリーの消費が大きくなった。

このため、着陸場所付近でバッテリー残量が少なくなり強制着陸モードが発動した。安全に着陸させようとして手動着陸に切り替えたが、操作を誤った。

- 【再発防止対策】
- ①バッテリー残量に常に注意を払い、安全に帰還できる飛行距離を余裕を持って設定する。
  - ②バッテリー残量が少なく危険な状況になってしまった場合には、人や第三者の物件を傷つけないように着陸できる場所の候補をあらかじめ選定しておき、補助者と共有する。
  - ③突発的な強風への対応訓練を行い、不測の事態でも落ち着いて対処できるようにする。



## 事件事例2 通信が途絶え、機体を紛失

【事故概要】 無人航空機との通信が途絶えて墜落し、紛失した。

- 【主な要因】
- ①機体には障害物検知がついているほか、自動で帰還させるRTH機能も備わっていたため、如何なる状況であっても自動帰還してくれるものと誤認していた。
  - ②GPS信号が微弱な状態で障害物を検知した場合、回避飛行が行えずその場で停滞してしまうことがあるという理解が不足していた。

- 【再発防止対策】
- ①目視外飛行を行うにあたっては、極力目視外飛行を避ける飛行ルートや監視員の配置等を検討し、危険と判断される場合は飛行を断念する。
  - ②ドローンの性能、操作方法、紛失、事件事例等について、定期的に操縦教育訓練の場を設け、危機意識の向上と共有を図る。



事例1・2出典：「令和3年度無人航空機に係る事故トラブル等の一覧」国土交通省『無人航空機による事故等の情報提供』

## 無人航空機（ドローン等）使用時の注意点



- 飛行中は気象変化に注意し、天候が悪化しそうな場合にはただちに帰還させるか、緊急着陸する等、安全を第一に判断しましょう。危険な状況になる前に察知して回避することが大切です。
- 法令や条例に定められたルール以外にも、飛行させる場所毎のルールや社会通念上のマナーについてもしっかりと遵守しましょう。
- 無人航空機の保険は強制保険はなくすべて任意保険ですが、万一の場合の金銭的負担が大きいため、保険に加入しておきましょう。

👉 無人航空機の飛行ルール、登録制度、飛行許可・承認手続き等について、詳しくは国土交通省ホームページを参考にしてください。

[https://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_tk10\\_000003.html](https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html)



無理な飛行は事故につながります。計画中止や帰還させる勇気を持ちましょう

建設業年度末労働災害防止強調月間 令和5年3月1日～31日

主唱：建設業労働災害防止協会 後援：厚生労働省、国土交通省

年度末は様々な作業が錯綜する時期です。いつも以上に安全対策と作業確認を行いましょう

